

先陵だより

発行 神奈川県立先陵高等学校PTA
編集 PTA広報委員会
No. 25 1981. 7. 10

或る山にての随想

PTA会長 清水 栄一



新緑の萌え立つ回がく山道を、快脚車へ登る。オサの
原生林に包まれたその静かな山頂へは、大分陽が傾いて
から漸く、そこで私はその日初めての人影に逢う。若い
ワッゲルの八人程のボータイ。女子学生二人を交え
て、故らは私から離れた麓の茂みに大きなナスリソウ
を降ろす。長い苦しい登攀の末の解放感が、彼らを極め
て上機嫌にしている。丁度私自身の子供と同じ年頃の若
者達。笑い声が響き、屈託の無い男女の声が明るく
とびかう。彼らには山で会った年輩の一人の男の存在な
ぞ、全く何の関心も無い。私は杓ちかけた樹木の傍に腰
をおろし、その距離を、何か計る様に見詰める。

「俺にもあんな日が有ったかな」私はザツクの麓から
溝を湧かす為、小さなコンロを取り出す。私の目の前を
たった今通りすぎた若い群れのしたたる汗の匂いをふと
思い返す。くすんだ記憶が、帽子の向うの風景の様に
胸に響く。既に、学園に帰郷の真い色が色濃かったあの日
々私はそつと頭をふり、微かに苦笑する。昼食の残りの
乾いた固いパンを、噛りつぶせる。

私の小さなオプティマスが湯気をたぎらせ始めた頃、
青年達は山を降りてゆく。賑やかな騒めきがりーダーの

声で小さなきびきびした規律に包まれ
る。下段の引いて行く様に、一つの世界
が狭みの彼方にたもてる。山頂へ登る。山
に静けさが降り、山は冷えをます。あま
り中々くもして居る。何となく足踏バ
スを使えねば。私ははじかれた様に立
ち上る。学生達とは反対側へ山を降りる。
岩塊のガレ場をすぎ前場をつたい河原を
わたりバスの発着する標高最高の部落ま
で、これから訪らねばならぬ。汗が冷え
ひやりと冷たいザツクを前にすると、そ
の重みに一瞬押される様に、私は足をふ
み出す。それでもいつしか私の山道は、
下りのリズムに馴れて、バイクイソウの
群集のある斜面を一段に駆け降り出して
いるのである。

本年度のPTA役員を ご紹介いたします

- 会長 清水 栄一
- 副会長 工藤 孝一
- 会計 清水 秋江
- 会 計 大沢 隆子
- 会計監査 鈴木 享子
- 相川 マチ子
- 長 田 マチ子
- 書記 長 坂 明
- 川村 登明
- 川村 登明
- 宮田 一郎
- 藤原 定義
- 入沢 洋子

五十六年度 行事予定

- 4・6 始業式
- 7 入学式
- 30 遠足
- 5・15 PTA入部会
- 16・20 中間テスト
- 28 体育祭
- 6・11・13 教育実習生指導
- 7・31・7 期末テスト
- 9・16 球技大会
- 10 国語科校外授業(新劇)
- 9・16 球技大会
- 9・16 球技大会
- 21 将棋式
- 7・22・8・31 夏休み(登校日一日合宿)
- 9・22・23 光健祭
- 28・29 校内模試(二年)
- 10 下旬 中間テスト
- 10・27・31 修学旅行
- 11・6・7 校内模試
- 12 中旬 英文テスト
- 中旬 スケート教室(一年)
- 18 学芸音楽祭
- 24 終業式
- 25・1・7 冬休み
- 2 下旬 学年末テスト(三年)
- 3 下旬 マラソン大会
- 3・1 卒業式
- 3 中旬 学年末テスト(一・二年)
- 35 終業式(職員・生徒)
- 3・26・4・4 春休み